

# 多くの優れた弟子を育てた 儀山善来



儀山善来肖像  
(曹源寺蔵)

**日** 本という国が大きく揺れた明治という時代。この激動の時代の、日本の指針となるような思想の一滴が若狭から湧き出しました。大島畑村（現在の太飯郡おおい町大島）で生まれた儀山善来は師を求め諸国を行動し、岡山曹源寺の太元孜元のもとにたどり着きます。太元老師は一見して儀山の底知れぬ才能を見抜き、厳しく教育しました。その後、儀山は曹源寺で悟りを得て、太元老師の法を継ぎ、弟子の教化に尽くしたのです。

儀山が曹源寺での作務を終え、風

呂につかろうとしたときのことです。あまりの熱さで湯槽に入ることができずにいると、それに気が付いた一人の弟子が、手桶にある水を湯槽に注ぎました。弟子は、儀山老師が入るのにちょうどよい温度となつたことを確認し、手桶の残り水を無造作に地面に捨てました。それを儀山が見た瞬間、大きな一喝が曹源寺に響き渡ります。「馬鹿者。お前がいま無造作に捨てたその一滴の水を、なぜあと数歩進んで草木の根元にかけてやらなんだか。日照り続きで、その草木が泣いている声がお前には聞こえぬのか」と。この大

喝を受けて、その弟子はぼつと悟りを得ることができました。この弟子こそ、後の天龍寺管長として名を天下に知らしめた滴水宜牧です。その他にも、儀山は多くの優れた弟子を育てます。その中には、妙心寺の越溪守謙や円覚寺の今北洪川、釈宗演といった、時代を築いたそうそうたる人物がいます。儀山は、まさに若狭の一滴が大河となり世界に広がる、その根幹となった禅師だったのです。

明治10（1877）年、儀山に死の影が迫ると、危篤を聞きつけた越溪守謙と釈宗演は、急ぎ岡山へ向かいました。しかし、一歩及ばず、儀山は弟子の到着を待つことなく亡くなります。後に世界に「ZEN」を広めた釈宗演の自叙伝『衣の純び』は、このときをもつて絶筆しており、



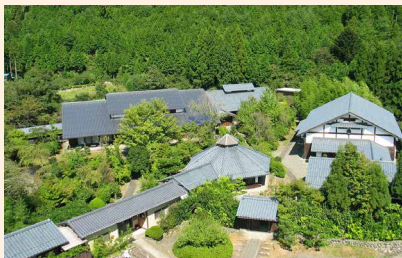
曹源寺

いかに儀山の死によるショックが大きかったか伺い知れます。

儀山は慶応2（1866）年にその多大なる功績をもつて天皇から仏国興盛禅師の称号を賜るなど、一時代を築いてきました。その活躍の一端は、昭和を代表する作家、水上勉が現代に伝えていきます。そして、水上が私費を投じて故郷おおい町に創設した若州一滴文庫の名前は、儀山禅師と滴水宜牧の「一滴の水」の逸話から名付けられたのです。

## 関連史料・ゆかりの地

### 若州一滴文庫



若州一滴文庫  
(水谷内健次撮影)

若州一滴文庫は、郷土出身の作家である水上勉の2万冊を超える蔵書や、水上が集めた絵画などの美術作品を展示しています。舞台が竹林に面した劇場や植栽豊かな庭園で、水上文学の世界を堪能できます。

【住所】大飯郡おおい町岡田33-2-1  
(JR若狭本郷駅から福鉄バスで「大飯中学校前」下車徒歩3分)

参考資料等

禅文化研究所『近世若州僧宝伝』臨濟宗相国寺派第四教区  
水上勉『曹源一滴のこと』『一滴』若州一滴文庫

執筆・協力

若州一滴文庫 NPO 法人 一滴の里 事務局